

園路工



施工前



施工後

利用状況

- 千本桜を訪れた多くの観光客が利用しています。
- 地元住民が散歩に利用しています。

(利用者の声)

■来訪者が歩道整備のおかげで駅から観光地まで歩きやすくなりました。



管理状況

従前から継続している「うつくしまの川・サポート制度」により、引き続き地域団体が河川愛護活動を継続しています。

関係機関

- 福島県 三春土木事務所 業務課
- 小野町 地域整備課
- 諏訪古峯緑のこみち会
- 夏井川桜咲く水辺の会
- 夏井川河川愛護会
- 夏井川友の会

TEL : 0247-62-3151
TEL : 0247-72-6936

さくらで海へとつなぐ夏井川

小野町夏井地区

小野町

県中建設事務所
計画期間:H16~H18

地域づくりの方針

地域住民や愛護団体などと連携・協働し、活力と魅力ある地区とするとともに、「夏井の千本桜」「諏訪神社の翁媪杉(国指定天然記念物)」という観光資源を活用し、交流人口の拡大を図る。

主な事業内容

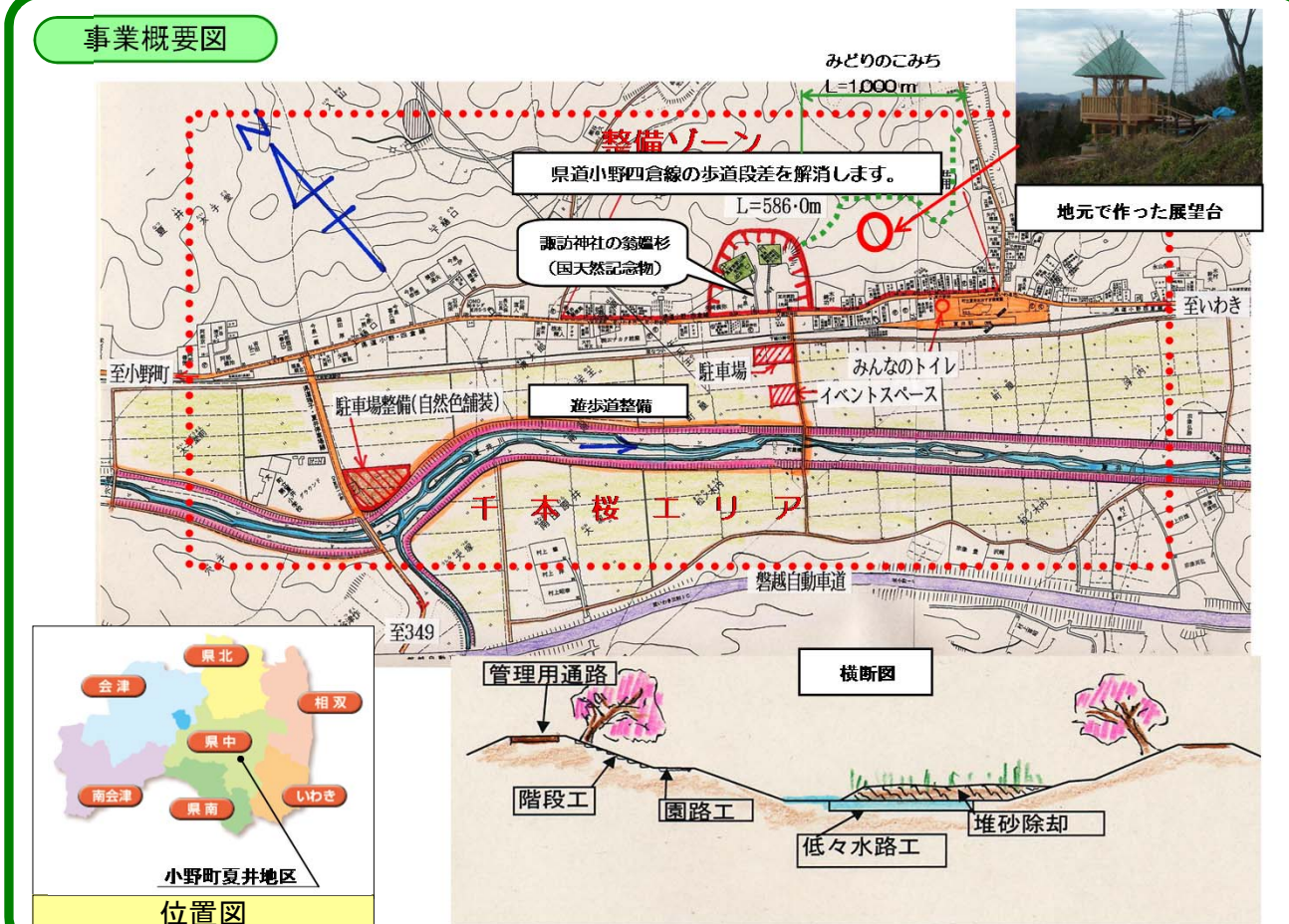
『夏井川千本桜』の連続性・回遊性向上のため、

遊歩道

を整備しました。



事業概要図



地域の現状

夏井地区は小野町の南部に位置し、地区の中央を流れる二級河川夏井川の両岸5kmに渡り桜並木となっている「夏井の千本桜」として有名な地区で、毎年数万人が訪れる観光地であります。地元住民が昭和40年代から長期に渡り手入れをしており、その他河川愛護活動においても、本地区の「夏井川河川愛護会」や「夏井川花咲く水辺委員会」などが引き続き実施中であります。これらの団体は、県と「うつくしま川・サポート制度」の合意書を締結しています。

また、近隣の県道小野四倉線沿いには国指定天然記念物の「諏訪神社の翁媪杉」があり、歴史・文化を感じさせる観光スポットとなっていますが、歩道幅員が狭く段差が多いため観光客の歩行に支障を来している状況です。これらの問題を解消し、「千本桜」と「翁媪杉」の2大観光資源を活用した、交流人口の拡大を図りたいと考えています。

地域づくりのあゆみ

平成16年

- 夏井地区は小野町の南部に位置し、地区の中央を流れる二級河川夏井川の両岸5kmに渡り桜並木となっている「夏井の千本桜」として有名な地区で、毎年数万人が訪れる観光地である。地元住民が昭和40年代から長期に渡り手入れをしており、その他河川愛護活動においても、本地区の「夏井川河川愛護会」や「夏井川花咲く水辺委員会」などが引き続き実施中である。これらの団体は、県と「うつくしま川・サポート制度」の合意書を締結している。また、夏井川水系の参加5団体（①夏井川河川愛護会②夏井川上流域連絡協議会③夏井川友の会④小野町地域振興委員会⑤夏井川流域住民による川づくり連絡会）では、第5回「川の日」ワークショップにて流域賞を獲得している。しかし、多くの観光客が訪れるようになり、①並木を周遊する園路が不連続で支障を来していること②駐車する場所が少ないため路上駐車が多く、渋滞の原因となっていることが課題として浮き彫りになった。
- また、近隣の県道小野四倉線沿いには国指定天然記念物の「諏訪神社の翁媪杉」があり、歴史・文化を感じさせる観光スポットとなっているが、歩道幅員が狭く段差が多いため観光客の歩行に支障を来している状況である。これらの問題を解消し、「千本桜」と「翁媪杉」の2大観光資源を活用した、交流人口の拡大を図ることを計画した。H16は、夏井川付近の駐車場整備を実施した。

平成17年

- H16に引き続き、夏井川の遊歩道整備を実施した。
- 併せて、県道小野四倉線の歩道改修を実施し、「千本桜」と「翁媪杉」の2大観光資源の回遊性を創出することができた。

平成18年

- 夏井の千本桜の観光客に各施設が非常の好評を博すとともに、小学生の清掃活動が実施されている。

平成19年

- 観光入り込み客数が激増するとともに、夏井の千本桜の観光客に各施設が非常の好評を博すとともに、小学生の清掃活動が実施されている。

平成20年

- 夏井の千本桜の観光客に各施設が非常の好評を博すとともに、小学生の清掃活動が実施されている。

元気づくりの立役者たち

夏井川



千本桜



事業の効果

■観光客の増加

「夏井の千本桜」来場者数が増加しました。

H18：60,450人
H19：80,000人（32.3%増）
H20：80,000人

夏井川の賑わい



■他地域との交流連携

夏井の千本桜は既に観光地として確立されており、花見の時期に観光客との交流があります。夏井川を媒介として、いわき地方との連携を図っています。

■地元主体の新たな取り組み

夏井川千本桜が見える高台に展望台を地元住民自らが出資して作りました。

展望台



地域の課題・今後の展望

駐車場の維持管理及び桜並木の保全については地元で管理していますが、高齢化で負担が大きくなってきているため活動を継続し、千本桜を保全していくためには、若い人をいかに参加させるかが課題であります。